

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホームお母さん	ユニット名(2階)
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2297-17		
自己評価作成日	令和5年10月25日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル4階
訪問調査日	令和5年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境でお天気が良い日は散歩や外気浴に出て、季節の花々を愛でながらゆっくりとした時間を過ごすことができます。敷地内の小さな畑では毎年トマトやナスを育てており、散歩ついでに野菜の成長を観察し収穫を楽しみにしています。職員手作りの食事は調理の音や匂いを感じながら温かいうちに提供され、皆様の楽しみの一つとなっております。近隣の乳児院とは子供の日や敬老の日、ハロウィンやクリスマス等で交流が多くあり、小さなお子様達の姿に入居者様は笑顔になられております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を出入り口、事務所内に掲示し、毎日目を通し、管理者と共に職員一同確認を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の乳児院と交流があり、子供の日やハロウィーンの日に行事にはプレゼントを届けるなど貴重なふれあいの場となっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のすぐ近くに住まわれている運営推進委員の方がおり、共に情報の共有を行い関係を構築しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣のグループホームとの合同会議が2回、デイホームお母さんの家との合同会議が2回と年4回の運営推進会議を行い意見交換や情報の共有をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長が窓口となり、随時ご指導や助言を頂き、各ユニットへの情報共有が図られています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を通して身体拘束による様々な弊害の理解に努めています。転落の危険のある入居者に対しては、御家族に説明を行い、同意を頂いた上で、必要な時間帯のみ使用し記録を残しています。玄関の施錠は事故や犯罪防止のため施錠をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関しては、研修や資料等から学び、言葉による虐待も含め、話し合いながら虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が内容を把握する為に、書類等の配布・必要関連の研修への参加する機会を増やし、知識を得ると共に、今後も話し合いの場を増やしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険分と自己負担分の説明、又、該当者の加算項目や入居時の条件など、丁寧に説明をし、納得された上での契約となっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置して、施設の意見、要望等の把握に努めています。又、面会時に御家族にはその都度御意見、御要望がないかをお聞きしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務実績や活動報告、今後の予定を報告しています。管理者は職員からの意見・提案をカンファレンス等で聞く機会を設け代表に報告しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、個々の努力、実務評価を行い、意識の向上に努めています。また、カンファレンス等で資格取得を促し、資格取得により給与も上がる為、各自向上心を持って仕事が出来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は、可能な限り参加をしており、職員の学習、知識の修得の為、スキルアップに努めています。研修を受けたものが報告書をまとめ、資料等を各自が目を通すようにしています。又、Eラーニングによる研修により知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に加入しており、同業者との交流があります。地域のグループホームとは合同運営推進会議を通して情報交換や勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用を開始する前は家族様やご本人様から要望や心配事を聞き取り、不安が軽減できるように細やかに配慮をしている。入所されてからご本人様の状態を把握しこまめに話を聞きながら安心して生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には家族様から事前調査を行い、ご本人様の状態や心配事、要望を聞いて情報共有をしている。入所後もご本人様の様子や体調を随時報告をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族からの相談内容から、本人にとって何が必要なのか把握し、今後の施設での生活を予測しながら話し合い、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、尊敬の念を常に持ち、入居者と接しています。日々に生活の中で、職員と共に洗濯物たたみや、お掃除の手伝いをして下さりと、相互に支えあって生活しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に常に家族と一緒に考え、どのようにしたらいいかを話し合い、信頼される関係を作っています。LINEを活用し日々の様子も発信しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各階になじみの人がいる方もあり、職員と共に会いに行き交流が保たれている。親族や友人の面会も可能な限り行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題、趣味などがある入居者を職員が間に入り支え、和気あいあいと楽しめる様雰囲気作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居した入居者の方でも、現在どのようになっているか、面会に行った際などに必要に応じて聞くようにしています。家族が施設にいられた際は、経過をお聞きしています。また担当した社協の方からも情報を得ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、本人の希望等を確認し、カンファレンス等で検討し、それぞれの意向に沿って生活を送って頂ける様、援助しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や育った環境は家族様やご本人様よりお聞きし、情報は職員間で共有している。生活歴からご本人様の得意なこと、苦手なことも共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態に合わせて、一人一人に要望を聞きながら体操や散歩、脳トレを実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでは、本人様の現状、今後の課題や、又、面会時等に家族の要望を聞き取り、本人様と家族の意向に沿えるよう、介護計画を作成し、ケアを実践しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者一人ひとりの日々の様子や、行動などを個別の記録に具体的に記入し、職員間で情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設敷地内にデイホームが隣接しており短期利用型共同生活介護サービスを提供できる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域のボランティアの方に来ていただき交流の機会を設けていたが、現在は感染症対策をしながら近所を散歩したり花見ドライブをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族から希望を聞き、係り付けの病院の希望があった場合は、継続して受診出来るように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の定期訪問で細やかな看護を受ける事が出来ます。又、急変時も24時間体制で相談などが行え、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時の情報把握の為、病院関係者、家族との連携しながら対応を行っています。入院中も病院や家族様と連絡を取り合い、情報共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に指針の説明を行い、急変時の対応について家族様の意向を確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、事故、急変時に備えています。又、施設一階事務所にAEDを設置し、急変時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内にスプリンクラーを設置しています。避難訓練を年2回実施し、全職員が安全に入居者様を避難させる事が出来る様、訓練しています。又、防災倉庫を設置し緊急時に必要な物品を備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は必ず声掛けを行い入室しています。自尊心を傷つけないような言葉遣いに注意をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由時間に何をしましょうか、特別メニューに食べたい物がありますか等、希望を聞きながら自己決定ができるような働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで食事時間をずらしたり、静養をしたり散歩をしたりと、どのように過ごしたいか、希望に添うよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪染めをされる方もおりおしゃれを自由に楽しめるよう支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れて頂いたり、野菜の皮むきをお手伝ってもらったりと一緒に食事に準備をしています。食後は食器拭やお盆拭きを手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣に合わせ、水分不足と思われる入居者には、こまめな水分補給を促し、本人の好みの飲み物(サイダーやコーヒーなど)をお出しする様にしています。個々に合わせた形態で食べやすい食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは歯磨きとうがい薬にてケアをしています。又、訪問歯科での治療を、定期的に行われている入居者様もあり、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見逃さず声掛けし、失禁の回数を減らす努力をしている。又、排泄時は、トイレでの転倒の危険もある為、入居者のプライバシーに配慮しながら、見守りを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないようなお声かけや適度な運動を心掛けています。便秘傾向の入居者様に対しては、牛乳、ヨーグルト等を摂取してもらい、最終的に下剤等を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決められており、基本的には一日置きに入浴して頂いています。一人一人ゆっくりと入れるように時間をとっています。入浴剤を入れて気分良く入浴ができるよう支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの向きやテレビの位置等ご本人様の要望を聞いています。入床の時間や消灯の時間は個々のペースを優先しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報説明書をファイルし、分かりやすい場所に保管しています。服薬内容に変化があれば、その都度情報共有しています。薬はご本人様の状態に合わせて錠剤や粉砕など、医師に相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いする事で役割を持たせ、出来ることを増やすことで自信につなげています。散歩や外気浴は運動も兼ねて良い気分転換になっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の観点から、外出は行けていない状況です。家族やご本人様の要望で自宅や外食に行かれる方はおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の進行から現金の管理が難しい状態にあり、現金は預からず立替し必要品を購入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、その都度要望があればかけられる様支援しています。最近では職員が間に入りLINEのビデオ電話を使用し入居者と家族が会話が出来るな環境を支援しています。手紙のやり取りをされている方もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは整理整頓を心掛け、余計な物は置かず消臭や明るさにも配慮をしています。空気清浄機を設置し適度な湿度を保てるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアは広々としており、自由にテレビを観たり気の合う入居者同士で談話しながら外の景色を眺めたりされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ等、長年本人様が使用していた物を持ち込んで、頂いています。ご家族の写真飾る事により、穏やかに過ごして頂ける環境づくりを心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行が出来る手すりを設置し、車椅子が動ける十分なスペースもあります。各居室にネームプレートを置いたり、トイレの場所をわかりやすく張り紙をする等工夫をしています。		